

新年にあたって

シンガポール日本商工会議所 会頭
TORAY INTERNATIONAL SINGAPORE PTE LTD
Managing Director
馬場 孝一郎



シンガポール日本商工会議所会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、2024年が素晴らしい一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

昨年を振り返りますと、米中摩擦、ウクライナ戦争の長期化、大規模な気候変動など、明るい将来の見えないニュースが目立った年だと感じます。またそれらが引き起こす経済上の問題も大きなチャレンジとなって我々の仕事や生活に大きな影響を及ぼしています。ここシンガポールでも物価やエネルギー価格の上昇と、それに伴う人件費や不動産価格の上昇も大きな悩みの種となっております。2024年も引続き先の見通せない状況が続きますが、JCCIとしましては会員企業様のビジネスや当地での生活をしっかりと支援していくよう更なる努力をしていく所存です。

昨年は日本アセアン友好協力50周年の節目にあたる年でした。JCCIは「強く、誇り高く、日本をアピール！」を活動の基本方針に掲げました。日本人コミュニティの皆様とも協力しながら、日本の存在感をアピールすると同時に、シンガポール社会にも貢献することを目指し、様々な活動を展開してきました。各部会においては、幅広いテーマの視察会、懇親会、講演会を開催し、多くの会員企業が参加し、情報収集や人脈づくりに活用していただきました。

私自身は、重大なミッションである「日本のプレゼンス向上」に特に注力してきました。シンガポールから日本を元気にしていくことを目標として、自ら積極的に、日本大使館、日本人会、ジェトロの皆様とも協力しながら、各種イベントを通じてJCCIの活動を宣伝し、会員増強・基盤強化を図ってきました。そして、日系ビジネスコミュニティ以外との交流について言及しますと、シンガポール国内では、シンガポールビジネス連盟（SBF）、人材開発

省（MOM）、経済開発庁（EDB）といった政府機関とのチャンネルを維持・拡大しつつ、欧州や米国など他の外国商工会議所とのネットワークも構築しています。海外においては、ジャカルタにおいて開催されました、アセアン事務総長との対話に継続参加して、各国の日本商工会議所やジェトロと一緒に、日本とシンガポール、アセアン各国との繋がりをより深めてきました。

また、11月には、「持続可能なビジネス最先端」をテーマに、4年ぶりに海外視察を復活させ、豪州メルボルンに視察団を派遣し私も同行しました。日豪水素プロジェクトとカーボンニュートラル木造オフィスビルなどの視察やビクトリア州政府との交流を通じて、メルボルンでの日系企業の活躍ぶりに大変感銘を受けました。

次にJCCI基金の活動を振り返ります。昨年も会員企業から多額の寄付金をいただき、地元団体の支援および留学生奨学金制度を通じて、日本とシンガポールの文化交流と発展に貢献することができました。基金の活動は、休日での開催が多かったのですが、シンガポールの皆さんと触れ合う貴重な機会ですので、可能な限り、様々な活動に参加しました。特に日本から来られたアーティストやパフォーマー達のイベントや日本語スピーチコンテストは大盛況で、シンガポール人の日本文化に対する興味が非常に高いと感じられました。また地元の慈善団体のイベントに参加した際は、JCCIの寄付に対する感謝のお言葉を何度もいただきました。ここで、あらためまして寄付をしていただいた皆様に感謝申し上げます。

さて、私の会頭としての任期もあと3か月ほどとなりました。やるべき事はまだまだ尽きませんが、全力で職務を遂行していきたいと思っております。本年も、より一層のご支援とご指導をよろしくお願いいたします。